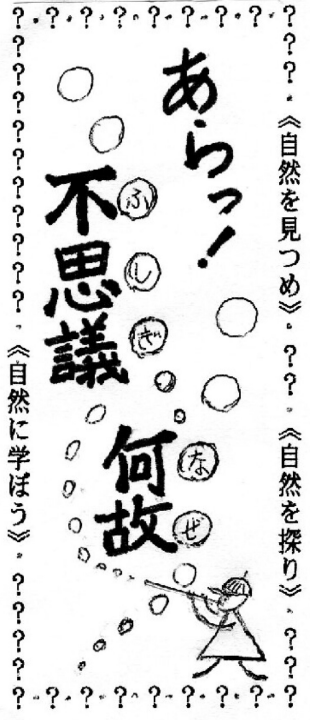


自然談議・科学談議



奇妙な足、ヤモリ

昨年8月、我が家の窓ガラスに、奇妙な虫がへばりついていました。何だろうとよく観察すると、ヤモリだった。南畑にもまだいたんだと感動し、あわてて撮影した。それがこの写真①だ。ところが年末に、また別の場所に現れた。写真②だ。



写真①

①は、すりガラスを透して撮ったので、画面が凸凹乱れてしまった。でも、全体像や足裏の様



写真②

子は分かると思う。写真②は、年末に上から撮ったもので、背中や尻尾の様子は分かると思う。

NO. 25 (通算25)

絵・文・題字 渋谷 一夫

たく、全身の皮膚は細かく分かれ、ウロコ状になっている。更によく観察すると、細かい粒のようになったウロコは全身を覆っている。またその粒のような黒っぽい斑紋は、環境によって色の濃淡を変える能力があるという。まるでカメレオンのようだ。

指の裏面は吸盤だ

だが、不思議なのはあのつるつるした垂直な窓ガラスを、平面を歩くように素早く走り回ることだ。垂直な壁も同じように歩く時には天井も、逆さになっ

て平気で歩いている。サーカスの曲芸師のようだ。何か足に仕掛けがあるのだろうか。

家を守るヤモリ

あるのです。よく見ると、足の指の内面が吸盤になっているのだ。指の内面は5本とも横ひだが多く、そのひだの間を広げると、そこが真空状態になって吸いつくのだ。すごい仕掛けだ。だが、尻尾もすごい。例えば、誰かに切られても、尻尾だけ置いて逃げてしまうのだ。尻尾は、その場でピョンピョン動いている。襲った相手が、その尻尾に気を取られている間に、体本体は素早く逃げてしまうのだ。だが、切られた尻尾は暫らくすると、また生えてくるといふのだ。トカゲやカナヘビにもおなじ習性がある。私たちは子供の頃、新しい尻尾が出てきたトカゲを、よく見かけたものだ。とにかく、その生命力はすごい。観察したいものだ。

昔の民家には、ハエやカクモ・ゴキブリなど様々な害虫が家の中に入りこんでいた。ヤモリはその害虫をねらっていたらしい。人間にとっては、迷惑な虫たちを食べ、家を守ってくれるので有難いことだ。だから「家守」と書き、ヤモリと命名されたようだ。ほんとかな。